

ウチナ〜タイム!

No.65
8月
2021年

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン



ウチナ〜タイム!

No.65
8月
2021年



石垣 優
(ex. やなわらばー)

結成20年、“やなわらばー”としての活動を終え、2人分の思いを背負って、ソロアーティストとして活動をスタート! 聴く人の心に響く、唯一無二の歌声を持つ

オキナワをもうちょっと知りたくなる **フリーペーパー**

クマノミデザイン

連載

<p>沖縄ビーチ巡礼</p> <p>富山義則 フォトグラファー</p>	<p>沖繩をテーマとした3分で読める読み切り超短編小説シリーズ。</p> <p>また、ヤレレか、笑っている。</p> <p>大城密</p>	<p>空飛ぶあっちゃんの自由発想沖縄料理</p> <p>沖縄料理研究家 高山 厚子</p> 
<p>たるの島唄コラム</p> <p>関洋</p> 	<p>しりとりに絵コラム</p> <p>ちんだみ日和</p> <p>田所ヨシユキ</p> 	<p>ナゴラブ</p> <p>名産を楽しむ情報サイト</p> 
<p>世界は泡盛でうまいく</p> <p>岡山進矢</p> <p>泡盛新聞東京支部長 泡盛トリコロール主宰</p> 	<p>「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。</p> <p>シーサー玉城ギャラリー</p> 	<p>information & present</p>

Cover

石垣 優 (いしがき ゆう)



2000年、石垣島から上京後、家族・友達・大切な人達から離れて暮らす寂しさから2人で曲作りを始める。
沢山の想いを込め出来上がった曲『青い宝』がきっかけで2003年デビュー。
2004年 テレビ朝日系アニメ「クレヨンしんちゃん」エンディングテーマ『ありの歌』リリース
2005年 渡米。約2週間に渡り西海岸で音楽活動を行い、国境を越え、海外のオーディエンスさえも魅了した。
2006年 7月にリリースした『唄の島』では、プロデューサーにRYOJI (from ケツメイシ) を迎え、その世界観をより広げた。
2007年 8月に1st アルバム『歌ぐすい』リリース。
テレビ朝日系全国ネット「ボカボカ地球家族」テーマ曲『空をこえて 海をこえて』
テレビ朝日系木曜ドラマ「エラいところに嫁いでしまった!」主題歌『「拝啓〇〇さん」』
テレビ朝日系「恋愛百景」エンディングテーマ「夢を見た」
テレビ朝日系木曜ドラマ「菊次郎とさき」主題歌「いちごいちえ」等の全13曲が収録され、オリコンウィークリーチャート6位を記録。
MUSIC STATIONへの多数の出演などを果たし話題を呼び、結成から7年をかけて遂に行われた初のワンマンツアーは全国各地SOLD OUT と

大成功を収めた。
2008年 4月には東京・大阪で初のワンマンホールコンサートを敢行。
同年9月 初のカバー集『涙唄』リリース。涙そうそう・島唄・少年時代・島人ぬ宝等スタンダードナンバーを収録。
2010年11月オリジナルアルバム「ゆくい歌」リリース。
ゆっくり、休憩などの意味のあるタイトルソング「ゆくい」が人々の心を癒す曲として話題となる。
2011年 3月の東日本大震災以降、心を癒し勇気づけられる曲としてフジテレビ系情報番組「とくダネ!」や日本テレビ系「PON!」などで収録曲が紹介される。
2011年11月 2作目の2枚組カバーアルバム「泣唄笑唄」リリース。
川の流れるように・秋桜・贈る言葉・木綿のハンカチーフ・卒業写真など往年の名曲を収録。
2012年8月デビュー10周年記念の2枚組アルバム「結〜ベスト&コラボレーション〜」リリース。
コラボセルフカバー盤には、BEGIN、THE BOOM、坂崎幸之助 (THE ALFEE) といった豪華なアーティストが参加した。
2013年2月 テレビ朝日系木曜ミステリー「科捜研の女」主題歌『でもね・・・』発売。
2013年5月よりバラエティ番組「関ジャニの仕分け∞」のカラオケ対決コーナーに出演し話題沸騰。
2013年9月 3作目のカバーアルバム「涙唄」をリリース。
2014年1月 オリジナルアルバム「愛歌 (かなうた)」リリース。
2015年4月 フォークソングカバーアルバム「泣唄 (えにwindた) 〜フォークソングとやなわらば〜」をリリース。
2015年11月 伊勢正三氏プロデュースのミニアルバム「(Windfall)」をリリース。
2018年6月 沖縄圏域の航空会社「琉球エア・コンピューター」CMタイアップ曲に『羽ばたき』が決定。
2019年3月 オリジナルアルバム「うりずんの歌」をリリース。
リリース当日に結成20年を迎える、2020年いっぱい活動を休止することを発表。
2019年5月 清涼飲料水「CHOYA 夏梅」(チョーヤ梅酒株式会社)のCM楽曲に『2人なら』が決定。
2020年3月 QAB琉球朝日放送4夜連続スペシャルドラマ「バナウル王国物語」の主題歌に『おかえり』が決定。
2020年4月 沖縄圏域の航空会社「琉球エア・コンピューター」CMタイアップ曲に『君がいるから』が決定。
2020年5月 清涼飲料水「CHOYA 夏梅」(チョーヤ梅酒株式会社)のCM楽曲に『夏空の下』が決定。
2020年11月 「やなわらばーラストライブ〜20年分のありがとうを込めて〜」を東京国際フォーラムホールCにて開催し解散。
2021年より、ソロ活動をスタート

<https://yu-ishigaki.com> (オフィシャルサイト)



さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

沖縄ビーチ巡礼 第5回「瀬底ビーチのリルワット族」

写真・文 富山義則/フォトグラファー



富山義則 フォトグラファー

とみやまよしのり

1953年生まれ。フリーランスフォトグラファーとして出版を中心に数々の仕事をこなしながら、自然や歴史をテーマに数多くの写真展を開催している。1970年代から90年代にかけて人気を博したカウンターカルチャーを代表する「別冊宝島」の表紙や「田舎暮らしの本」などを手がけ、2016年には、2008年に生産が中止となった期限切れのボラロイドフィルムを使った写真集を出版するなど、この斬新な試みも注目される。



瀬底ビーチでは水着モデルの撮影が頻繁に行われる時期もあった。



コヨテーズ

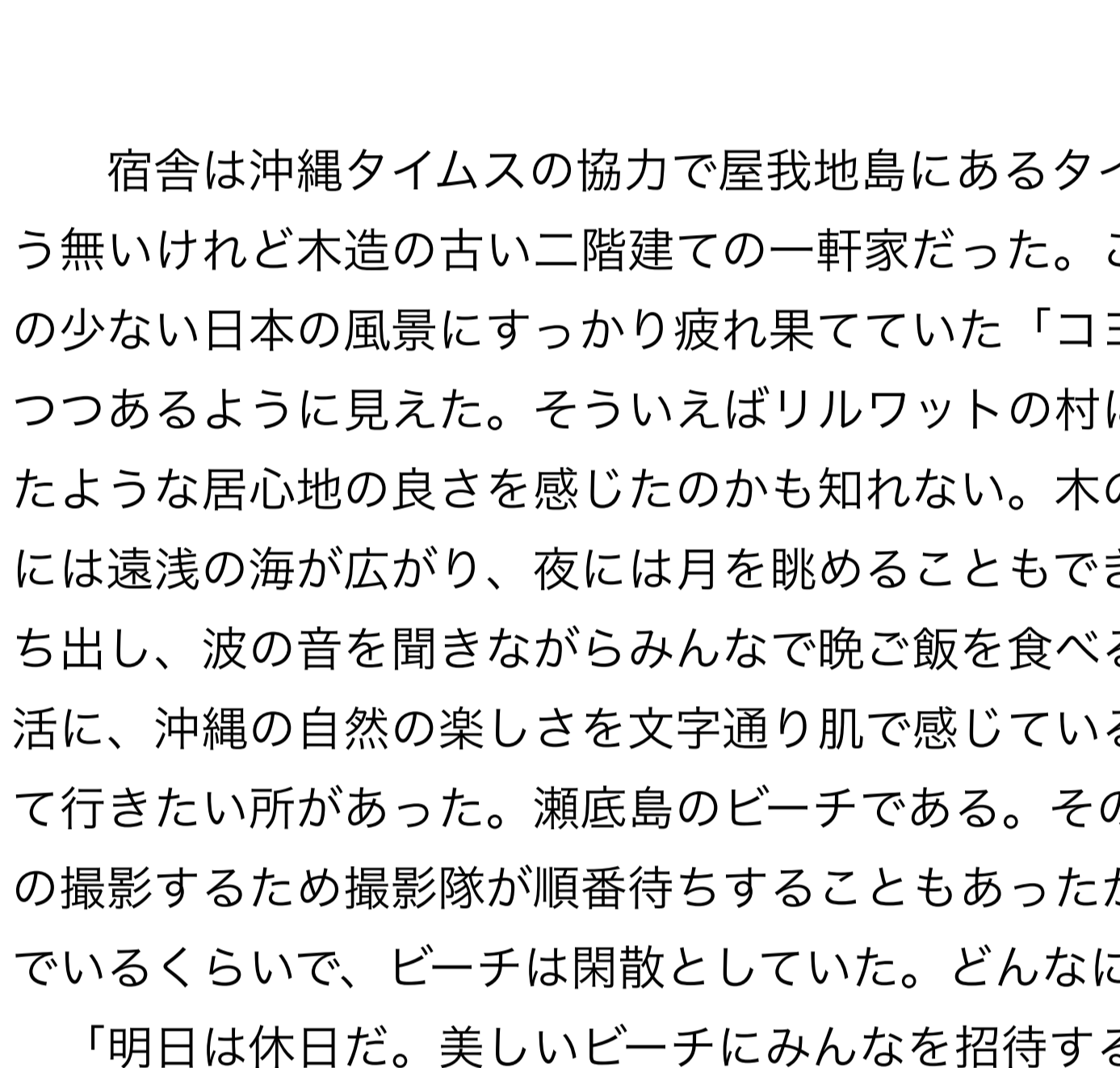
コヨテーズはカナダ・ブリティッシュコロンビア州にあるリルワット村のサッカーチーム。ネイティブカナディアン大会で優勝したこともある。山奥に住んでいるけれどサーモインターと呼ばれるコースト・セイリッシュの一族になるらしい。

「ジェームス、走れー!! シュートだ。打て、打てー!」
「ヒップ。パス出せ、こっちだ。左が開いてるぞ」
「ロバート、八番マークだ。戻れー、シュート打たせるなよ」
ネイティブカナディアン、リルワット族のサッカーチーム「コヨテーズ」日本遠征最後の試合も、残念ながら沖縄国際大に1対0で負けてしまった。

さて、なぜ彼らが沖縄に来たのか。話はカナダに留学している日本人学生と彼ら暮らす村との交流から始まった。多くの人の協力でリルワット族の青年たちが日本へサッカー遠征することが実現したのだが、ひょんなことからこの遠征をプロデュースすることになった僕は遠征の最後は山奥のリルワット村の青年たちに沖縄の美しい海を最後に見せたいと考えていたのだった。



ネイティブカナディアンの伝統的な絵をお土産に持って来てくれた。この絵はキラホエール。

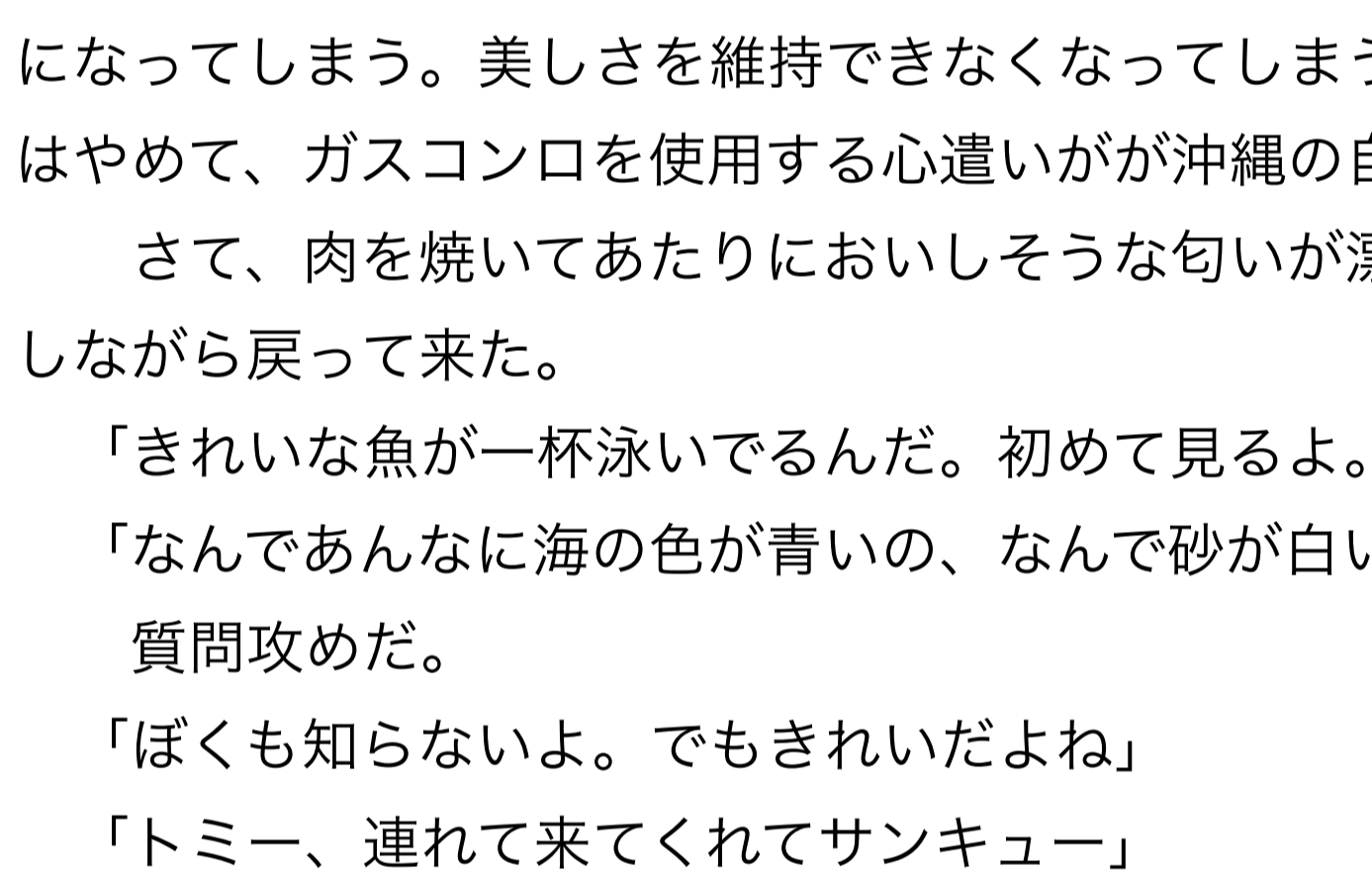


太陽とSisutiをデザインしたそう。残念だがSisutiが何かはわからないが獅子舞を連想してしまった。

宿舎は沖縄タイムスの協力で屋我地島にあるタイムスの保養所を使えることになっていた。今はもう無いけれど木造の古い二階建ての一軒家だった。これがかえって彼らには良かったように思う。自然の少ない日本の風景にすっかり疲れ果てていた「コヨテーズ」のメンバーは、みるみる元気を取り戻しつつあるように見えた。そういえばリルワットの村にはコンクリートの建物はほとんどない。村に戻ったような居心地の良さを感じたのかも知れない。木のある生活は人をリラックスさせてくれる。目の前には遠浅の海が広がり、夜には月を眺めることもできた。夕方になると、庭にバーベキューセットを持ち出し、波の音を聞きながらみんなで晩ご飯を食べる。カナダでは考えられないような賑やかな海辺の生活に、沖縄の自然の楽しさを文字通り肌で感じているようだ。ぼくは前にも述べたように、彼らを迎えに行きたい所があった。瀬底島のビーチである。そのころはまだ、人気ができる前のビーチだった。水着の撮影するため撮影隊が順番待ちすることもあったが、隠れたイチャングビーチ。地元の人が時々泳いでいるくらいで、ビーチは閑散としていた。どんなに騒いでもどこにも迷惑をかける心配はない。

「明日は休日だ。美しいビーチにみんなを招待するよ」

瀬底島のビーチにみんなを連れ出して、見たことのないような美しい海を見せてあげよう。



当時の瀬底ビーチ入り口の光景。

マイクロバスが瀬底大橋にさしかかると、窓の外に見えて来たコーラルグリーンの海の色にみんな驚いて、車内からは歓声が上がった。素晴らしい沖縄の海が広がる光景である。

ビーチの横に到着すると、待ちきれなかった青年も子供達も我れ先に飛び出して行った。じゃれ合いながら白い砂に埋もれて歩くのがいかにも楽しそう。どの顔にも笑顔が一杯ひらひらしている。その様子を見ながら、ぼくたちはモクマオウの林の中にバーベキューのセットをひるげて昼ご飯の準備をすることにした。ビーチの上でバーベキューすると真っ黒い炭が砂に混じり、せっかくの白い砂浜が灰色になってしまう。美しさを維持できなくなってしまうからね。ビーチパーティをするとき、炭のコンロはやめて、ガスコンロを使用する心遣いが沖縄の自然を守るには必要だ。

さて、肉を焼いてあたりにおいしいそう匂いが漂い始めると、まずおなかを空かせた子供達が興奮しながら戻って来た。

「きれいな魚が一杯泳いでるんだ。初めて見るよ。なんと言う名前なの」
「なんであんなに海の色が青いの、なんで砂が白いの、どうして透明なの」
質問攻めだ。

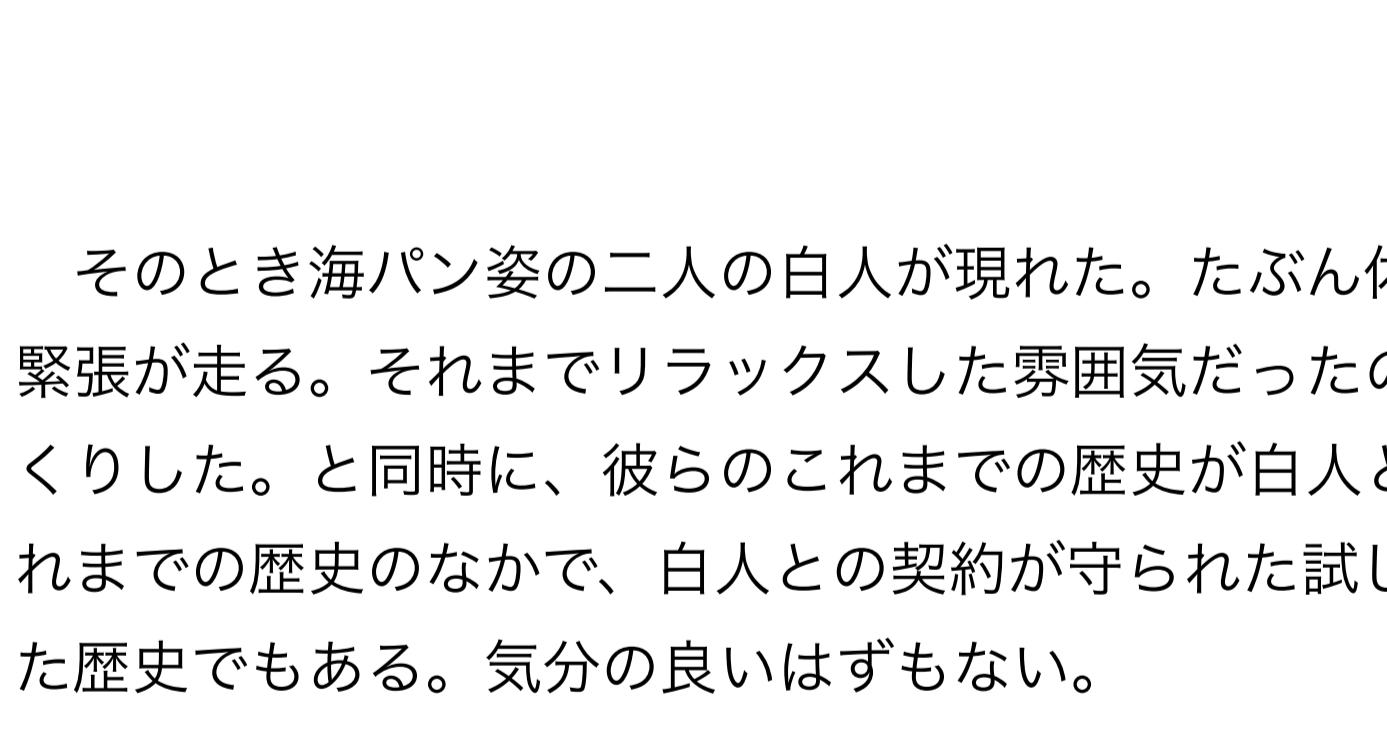
「ぼくも知らないよ。でもきれいだよね」
「トミー、連れて来てくれてサンキュー」

肉をパンに挟み、口にくわえながらすげう海に戻って来た。楽しくて、楽しくて仕方がないようである。子供達だけではない。チームのメンバーも海の中で大はしゃぎしている。ここでは、肌の色も人種も気にする必要など全くない。心行くまで楽しんでほしい。

「リーフの向こう側は急に深くなっているの、気を付けてくれよ」
「了解、トミー。心配するな。この肉はうまいぞ、焼き方も上手だ」



白い砂浜を歩くだけでも開放感に浸れる瀬底のビーチ。



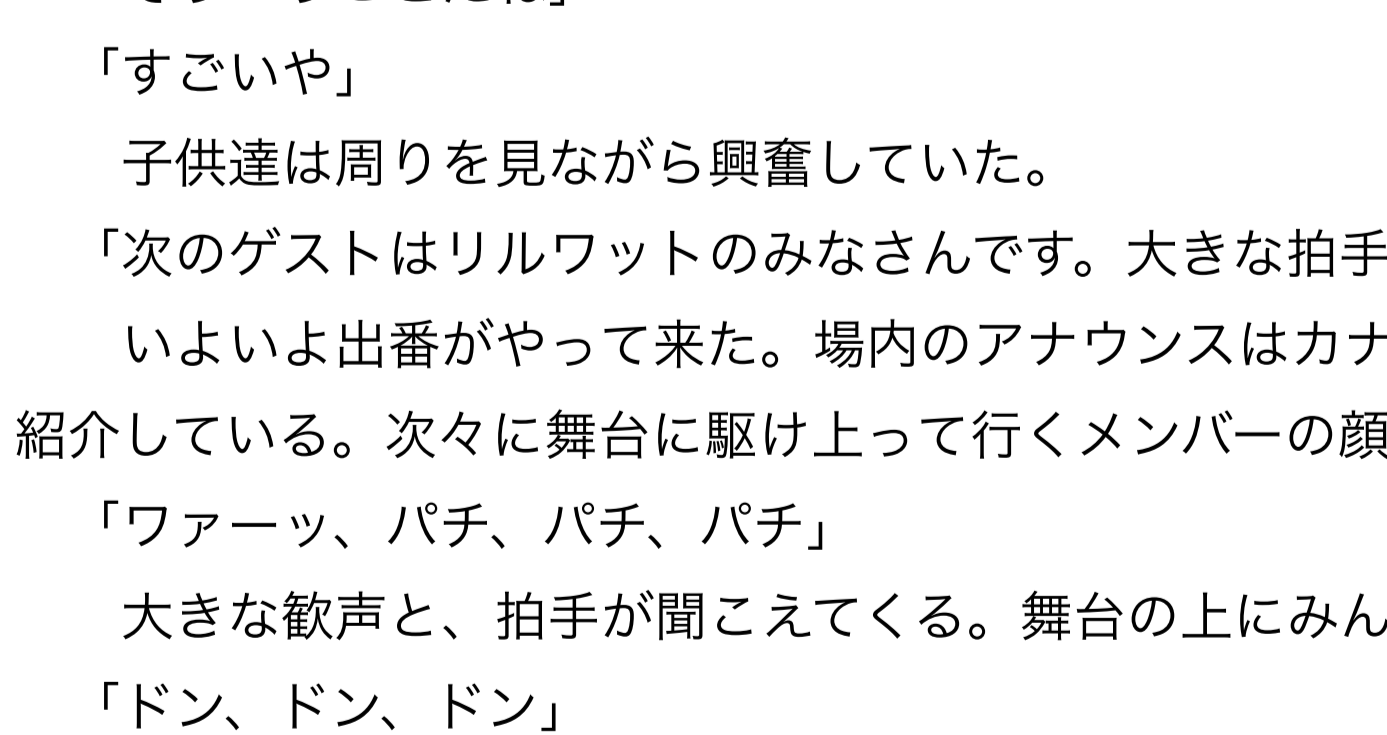
美しい海だけれど潮の流れには注意が必要である。



静かで美しい海と白い砂浜には惹きつけられる。

そのとき海パン姿の二人の白人が現れた。たぶん休憩中の米兵だろうと思う。周りにいたメンバーに緊張が走る。それまでリラックスした雰囲気だったのが一瞬にして重苦しいものになった。ぼくはびっくりした。と同時に、彼らのこれまでの歴史が白人との戦いであったことを思い出した。アルビンはこれまでの歴史のなかで、白人との契約が守られた試しがないと聞いていた。彼らの歴史はだまされ続けた歴史でもある。気分の良いはずもない。

二人の白人はこちらを見たと去って行った。沖縄には米軍基地があることをみんなに言わねばならない。どうしてこんな楽園のような所に基地があるのか問われるに違いなかった。



対岸に見える水納島にも美しいビーチがある。

休日を終えて那覇に戻り、帰国の飛行機を待っている間に突然喜納昌吉さんから連絡がきた。奥武山競技場で行われる彼のロックコンサートにゲスト出演しませんかとという話だった。彼らは喜んだ。中学生のマロンが舞台の前で踊り、青年達が後ろに並んで太鼓を叩いてリズムを取り歌った。マロンはイーグルダンスを披露することになった。ぼくも彼らのイーグルダンスは初めて見るので楽しみにしていた。控室で出番を待っていたら次々に有名なゲストがやって来た。ジュディ・オングさん、高石友也さん、まだ元気だったドントさん等々。

「あのきれいな人は誰?」
「台湾出身のシンガーだよ。ほかにもう一杯有名なシンガーがいるよ」
「じゃあ僕たちもその仲間なのかな」
「そういうことだね」
「すごいや」

子供達は周りを見ながら興奮していた。
「次のゲストはリルワットのみなさんです。大きな拍手をお願いします」
いよいよ出番がやって来た。場内のアナウンスはカナダからやって来た先住民たちが民族ダンスと歌うことを紹介している。次々に舞台上に駆け上って行くメンバーの顔はさすがに緊張していた。

「ワァーン、パチ、パチ、パチ」
大きな歓声と、拍手が聞こえてくる。舞台の上みんながそるった。一瞬静まる会場。
「ドン、ドン、ドン」
リロイの太鼓の音を合図に歌とダンスがはじまった。たぶん、初めて生で見たであろうカナダ先住民の歌とダンスは、沖縄の人々の暖かい拍手が大成功だったことを知らせてくれた。

その夜は喜納昌吉さんと出演者の打ち上げパーティにも顔を出して、メンバー達は一晩中大騒ぎの那覇の夜だった。
いよいよ最終日。メンバーはそれぞれ帰国の準備に忙しい。家族や友人へのお土産を買い求めるために、三々五々と那覇の街に出かけて行った。子供達は留守番である。知り合った日本のガールフレンドに一生懸命電話をかけている奴もいる。うますいけば良いけどこればかりはどうしようもない。

ジョッシュが寂しそうな顔でやって来た。買い物に行きたいのかな。
「トミー、見せたいものがあるんだけど、ちょっと来てくれ」
ホテルのテラスにあるベンチまで来て、
「ここに座って姿を消した。ちょっと部屋まで行って」
と言いついて姿を消した。小さなバッグを手にして再び現れ、この前は見せようとしなかったプラスチックのケースから写真を取り出した。それは彼の家族の写真だった。

「これはぼくのお母さん、これはお父さん。こっかがみんなで撮った写真だよ。いとこの写真もあるから見せるよ」

次々に自分の血族の写真を広げて説明しはじめた。なぜぼくに見せる気になったのか判らないが、話している彼の顔は真剣だった。一ヶ月にわたる日本の旅でいるいるなことを感じとって、たぶん彼は自分のことを良く知ってもらいたかったのに違いない。彼の言葉聞きながらぼくも旅の終わりが来たことを悟った。
「ジョッシュありがと。君のことは一生忘れないよ」
「ぼくもだよ、トミー」

彼らはあつという間に那覇空港から笑顔で去って行った。「コヨテーズ」の日本遠征は成功したのだろうか? 飛び去る飛行機を見ながら、考えてみたがその答えは僕には解りようもなかった。

そうそう万座のハリー競争にもゲストで出場したけど勝てなかった。「応援パフォーマンス賞」をもらった時は嬉しそうだった。日本遠征の良い思い出になるに違いない。

また、やーるーが笑っている。

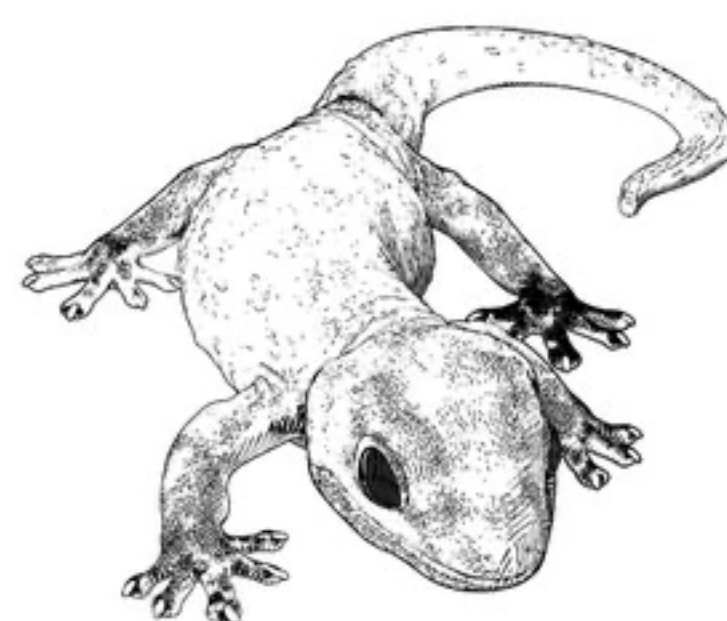
大城密/作家



沖縄をテーマとした3分で読める
読み切り超短編小説シリーズ。

第46話 『ゴーヤージュース』

僕が初めてゴーヤージュースを認識したのは小学校一年生の夏。
小学校で友達になった前田。休み時間を終えて教室に戻ってきたときに口にした一言に僕は驚いた。
「ああ暑い。早く家に帰ってゴーヤージュース飲みたいやっさあ」
「はあ？ 何それウソつくな。そんなジュースあるか」
「あるよ。めちゃくちゃおいしいぜ」
廊下の水飲み場の蛇口をほぼ全開に口の中に大量の水を放り込みながら前田はこちらを見た。Tシャツの襟が濡れているがそれが汗か水なのかはもう分からない。
「ゴーヤって野菜だろ。ジュースはフルーツで作るもんだろ。それにゴーヤは甘くない。ジュースは甘いもんだ」
「お前トマトジュース知らんのか」
「フルーツトマトはフルーツだろ」
「何それ。お前こそウソつくな。そんな名前前のトマトあるわけないだろ」
ああ、そうか前田の家ではフルーツトマトはでないのか。あんなにおいしいのに。
その代わり僕の家ではゴーヤージュースはでない。
僕の頭の中に真っ赤なトマトジュースと恐らくは緑色のゴーヤージュースの二つが並んだ。
「うちのお母さん毎日飲んでるから、家に来た飲ませてあげられるぜ」
「おいしいの？」
「当たり前だろ。ハチミツもシークァーサージュースも入ってるんだ。おいしくないわけないだろ」
なるほど。シークァーサージュースも入っているのか。それは確かに期待値が上がる。
しかしそれならシークァーサージュースをそのまま飲みたいものなのだけれど、それではだめなのだろうか？



いや、わざわざシークァーサージュースを入れるということは、さらに味が増すということなのだろうと僕は判断した。
「じゃ今日遊びに来いよ。俺のニーニーは塾でないからゲームしようぜ」
前田の家に家は初めて行くし、彼に兄がいることは知らなかった。
一度家に帰り汗が滲んだ服を全て着替える。
前田の家までは徒歩で十分程度。場所も知っていたが、中に入るのが初めてだった。
少し緊張しながらインターフォンを押すと前田が飛び出すように玄関から出てきた。

「遅い。入って。クーラーが逃げる！」
クーラーは逃げない。逃げるのは冷気だと思ったがそんなことをいう必要はない。
靴を揃えると前田は客間に僕を案内した。
奥には前田のお母さんがキッチンに立っていた。
ミキサーの中ではまるで絵の具を溶かしたようなわざとらしい緑色の液体が回転している。
あれがゴーヤージュースか。いやそうじゃなければおかしい。
「そんなに楽しみか。すぐくるからゲームやろうぜ」
僕はミキサーの回転音を背中に感じながらゲームを始めた。
しかし始めた途端に背中に気配を感じる。
「はい。ゴーヤージュースお待たせ。これを楽しみに来てくれたんだよね」
振り返ると前田のお母さんではなく、前田を二回りほど大きくした少年が立っていた。
塾に言っているはずの前田の兄であることはすぐにわかった。

今回は『ワシミルク』お楽しみに！

大城密（おおしろひそか）
沖縄県出身、東京在住。エブリスタの「スマホ小説大賞2014」にて角川ホラー文庫賞を受賞。
『下町アパートのふしぎ管理人』シリーズでデビュー。その他、チャット小説アプリ『peep』、DMMノベルアプリ、『TELLER』のライター。ゲームシナリオライター。



角川文庫

ホームへ戻る

バックナンバーはこちらへ
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう！



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

空飛ぶあっちゃんの 自由発想沖縄料理

～食は笑顔運び心を紡ぐ～ 高山厚子/沖縄料理研究家



たかやまあつこ

1974年沖縄県旧羽地村（現在名護市）生。名護高校、琉球大学卒。元東京都小学校校長。沖縄料理研究家。修学旅行アドバイザー。執筆、講演活動、料理教室（自宅&出張）等で全国を飛び回る。NHKワールド・あさイチ等テレビ出演多数。琉球大学同窓会関東支部長。著作「緑のカーテンの恵みを食べよう」他。

第35回 えっ？これがニンニク？まるでニンニクのお相撲さんだ～

～八重山農林高校卒業生が、千葉県館山で農業に挑む！
～無臭ジャンボニンニクに沖縄の知恵を織り込んで

毎年、各地で発生する大雨被害に、故郷沖縄での台風の怖かった日々が蘇り心痛む。

2年前の千葉での台風被害の後、沖縄石垣市出身、八重山農林高校卒業生的那覇千敬さんから、「めげずに頑張っています。農業に夢をもって、色々取り組んでいます。小さな島、沖縄の石垣から出てきたのですから負けませんよ。」と、台風後に収穫したというヘチマやゴーヤー、玉葱、ニンニク等が送られてきた。決して、上等ではない。

でも、涙が止まらなかった。雨に吞まれた畑で頑張っている姿が見え隠れし、心の宝物への感謝を込めて作品の一つひとつを握りしめた。

そして、今年、見事な「ジャンボニンニク」が届いた。手の平に抱えるくらいの巨大ニンニク。しかも、無臭だ。「千葉・館山名産にしたい」との熱い想いを込めたお手紙と共に。

私の故郷・沖縄県羽地村（現名護市）の実家では、幼少の頃、甕一杯に丸ごと黒砂糖漬けされたニンニクは、子どもの貴重なおやつだった。運動会練習の時には元気な源だった。泡盛漬けは、父親たちのお酒のお供。元気の秘密だったかも。そんなことを思い出しながら、ワクワクしながら、メニュー開発だ。さあ、空飛ぶあっちゃんの出番で～。

まずはご覧あれ！この背比べと太っちょ比べを！



中央真中の白いのが普段私の使用している1個丸ごとニンニク。その右側はジャンボの一粒。更に比べてみよう。一粒比べです。



左がジャンボの一粒、右が普通のもの。まさに、ニンニクのお相撲さんだあ～。生を一口、ガリガリかじると、やや辛みがあって、ニンニクではなくて、玉ねぎをかじっているよう。

早速、保存食作り

① 黒砂糖漬け、②泡盛漬け、③オリーブオイル漬け、④塩麹漬け、⑤醤油漬け、⑥酢漬けに。砂糖漬けと泡盛漬けは、3か月後に楽しめますが、後は、普段の料理に常備使用します。そうそう、ジャンボガーリックも色々便利です。

どれも、これが、ニンニク？とびっくりする触感です。

詳細は、いずれ、ブログで紹介します。

色々楽しんで、ニンニクのエネルギーを体の元気にしましょ！



オリーブ漬け



泡盛と黒砂糖漬け



塩麹漬け



ガーリックに。



沖縄風油みそを沢山作り置きしてトーストに。野菜炒めに等



天ぷらやカナッペに（ナスやズッキーニの円周と同じ大きさ）



サラダにも。



チャーハンにも。



ヒラヤーチー（お好み焼き）をピザ風に。

このジャンボニンニクの匂い（アシリン）は、普通のニンニクの60分の一だそう。

ビタミン類、ミネラル（カルシウムやカリウム）、葉酸、植物繊維が豊富に含まれているとか。また、普通のニンニクには含まれていない「サボニン」という成分が多く含まれ、アルコール好きにはいいのねえ！

今回ご提供いただいた、ジャンボニンニクづくりの名人の那覇さんは、10月24日、柏にて、体験を兼ねた秋の収穫祭を開催予定。皆さん、応援して下さいねえ！！

私も料理作って待ってまあ～す！！

たる一の島唄コラム

第53回 シマウタと果報



「果報は寝て待て」という言葉がある。まさか「寝て待てば幸福が来るというなら何の努力もいらん」なんて理解する人はいないだろう。宝くじで億万長者になったような超ラッキーな人は別として。

さて「果報」とはもともと仏教用語で「因果報応」と同じように「前世の行いによって運が決まる」という意味だった。運は現世の行為ではどうにもならないから前世で徳を積んだならば現世では寝て待つと同じだ、という信仰から生まれた言葉だ。

この「果報」という言葉を沖縄のあちこちで聞くことがある。もちろんシマウタにも多い。発音は「くわふー」、「かふー」である。まずはこの曲から。

神からがやたら 結ばりてい縁や

浮世荒波ん 渡てい行ちゆん

二人や此ぬ世ぬ果報な者

(歌意)

神様が結んでくれた縁だろうか。浮世の荒波も渡って行く二人はこの世の果報な者だ。

「果報節」（作詞・作曲／普久原朝喜）というこの曲は結婚式の余興や民謡酒場などでよく歌われる。幸せな結婚も神様を大切に者にこそもたらされるという内容で沖縄では人気が高い。

果報に「世」をつけた「世果報」（ゆがふ）という言葉がある。全ての人が幸福を享受できる世の中という意味だ。厳しい暮らしだった琉球時代のウタに多く使われている。

八重山民謡に世果報節がある。小さな新城島（ばなり島）に生まれた。

サーサー昔からとうゆむ 我がばなり島や 高称久ばくさでい スリ世果報迎てい

ウリ シタリガ ヤウンザ シトウテントウンテン

(歌意) 昔から知られた我が新城島は高称久という岡を後ろに据えて世果報を迎えて

新城島は小さな平坦な島で米作には向かず豊かな島とは決して言えないが、世果報節を歌うことで五穀豊穡がもたらされると信じられている。言霊の力だ。

大国の弥勒 我が島にいもち

うかけふせみしより 弥勒世界報

(歌意) 大国の弥勒様、我が村にいらっしゃって治めて栄させてください それが弥勒世界報

八重山民謡「弥勒節」。本島の「赤田首里殿内」という歌にも全く同じ歌詞があるが、大きな国から弥勒様がやってきて自分たちの生まれ育った村に幸せをもたらしてくださいという。弥勒は「みるく」と読み、「みるくゆがふ」は多くのシマウタに登場する語句である。

琉球、沖縄の人々は「言霊」（ことだま）を信じてきた。以前コラムでも取り上げた「かりゆし」や今回の「果報」「世果報」「弥勒世界報」は、それを唱えたり歌うことで人々に幸せをもたらすと信じられている。それは広く古代から日本人特有の信仰でもあったのではないかと、という研究者もいる。

果報は日常会話にも使われる。例えば宮古島の人々が「ありがとう」と感謝の気持ちを表す時「すでいがふー」（「すでいかぶー」とも）と言うことがある。「すでい」は「生まれる」、「かふー」は「果報」だ。「生まれる」という語句とセットというところがとても深い所からの感謝という印象がある。

果報は言葉や歌となって、今日でも生きている。裏返せば琉球・沖縄の人々が厳しい現実と向き合う中で生まれた願いであり強い希望だからだ。果報を寝て待ちはしない。常に歌うのだ。



琉球古典の「かぎやで風」にも「果報」が。「あた果報」とは「思いがけない幸運」。

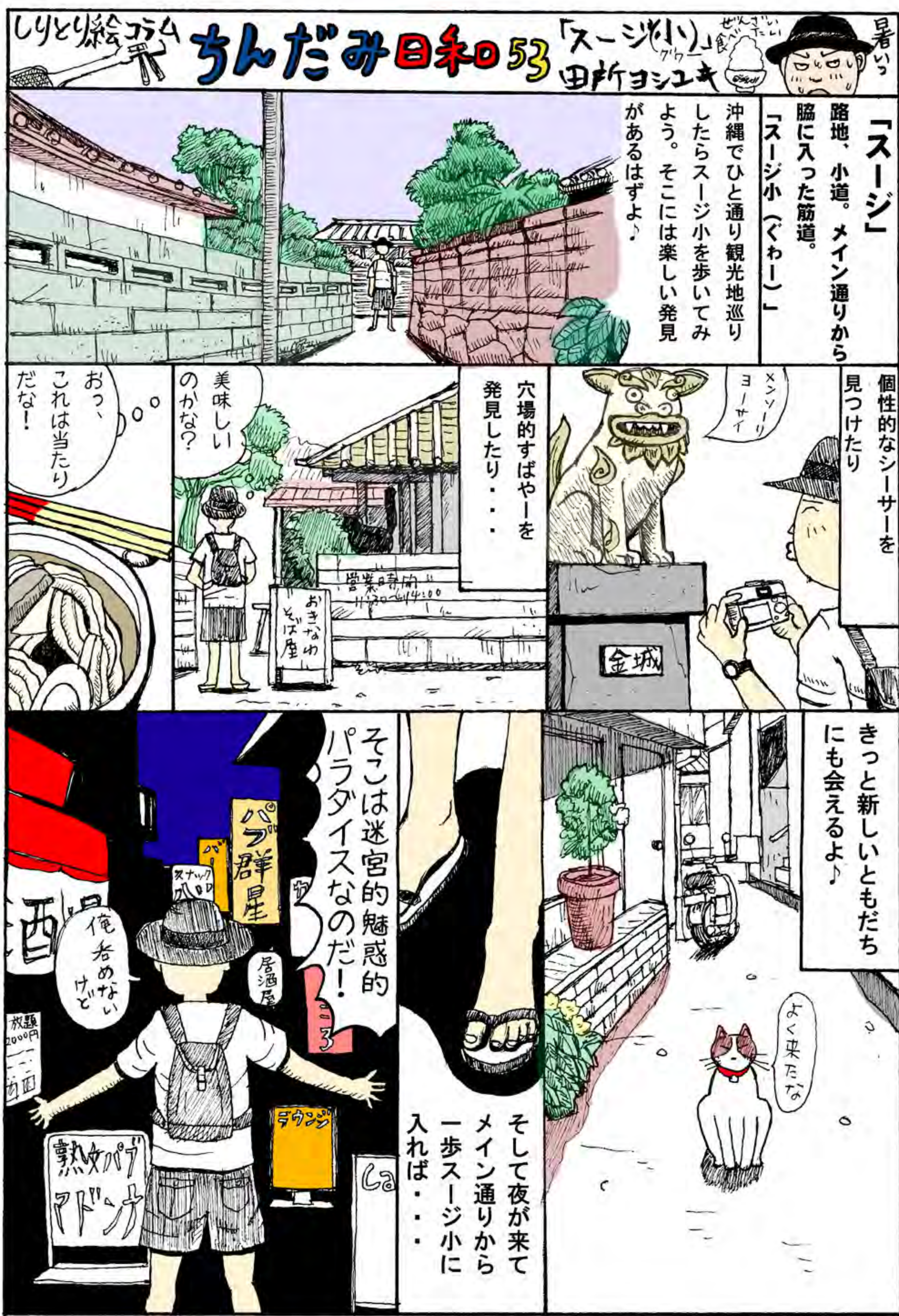
ウチナ〜タイム!

オキナワをもうちよっと知りたくなる WEBマガジン

No.65
8月
2021年
クマノミデザイン

しりとり絵コラムちんだみ日和 第53回

田所ヨシユキ/民謡歌手・シンガーソングライター・イラストレーター



ウチナ〜タイム!

オキナワをもうちよっと知りたくなる WEBマガジン

No.65
8月
2021年
クマノミデザイン

ホームへ戻る

バックナンバーはこちらへ
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

世界は泡盛でうまくいく

VOL.017 岡山進矢/泡盛新聞東京支部長・泡盛トリコロール主宰



【泡盛は夏の昼飲みに向いている！】

いくつかのSNSアカウントで情報発信させてもらっているが、先日そこで「夏の昼飲みに泡盛がふさわしい理由」という投稿をした。

この時季になると、カンカンに気温が上昇している昼日中に「ビール飲みたい!」という気分になるよね。SNS上にも「ビール飲みたい!」もしくは「飲んで!」という呟きが乱立し出す。スゴクワカル。

しかし、年齢とともにビールから受けるボディーブローダメージが増している自覚がある。体調にもよるが、350ml缶1本でその日が“終わってしまう”こともしばしば。昼から闇雲に「ブシツ」といくのはもう怖いんだよね。

そこで、我らが泡盛さんの出番だ。

投稿させてもらった「ふさわしい理由」は大きく分けて、3つ。

- (1) 身体の負担になりにくい
- (2) 美味しい
- (3) リーズナブル

(1) は、悪酔いのしにくさや、アルコールの抜けの早さについて。ビールやワインなどの醸造酒と比べると差は歴然（主観）で、それって昼飲みにおいては重要な要素だ。あと、カロリーがすぐに体温として消費され、最終的に体温を下げてくれるため、肥満や夏バテの予防になるのも嬉しい。

(2) は、言わずもがな。色んな飲み方が楽しめる泡盛だが、夏の昼飲みではソーダアップ+柑橘ピールで清涼感を味わいたい。もちろんジャブジャブに氷水で割って、おやつのお供にしちゃうのもグッド。

(3) も、ありがたい。その辺のスーパーやコンビニなんかで気軽に手に入る一般酒の2合瓶や3合瓶が1本あれば、一日それで楽しめちゃうからね。ビールよりどんだけリーズナブルだか。

というわけで、夏の昼飲みに泡盛を選ばない理由はナイ!

世界で一番、強烈な太陽と青い空と真白い雲と海と汗と湿度が似合う酒・泡盛（主観）を、この夏ぜひともお試しアレ。



[バックナンバーはこちらへ](#)

編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

ウチナ〜タイム!

No.65

8月

2021年

ケマノミデサイン

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン

シーサー玉城ギャラリー

VOL.02 シーサー玉城 / 画家・歌手・ラジオパーソナリティー



「一夜の命に魅き寄せられて」

アクリル画

原画 P50 (1167mm×803mm)

制作日 2018年5月たぶろう会 佳作賞受賞

一夜にして散ってしまう「サガリバナ」の儂くも生命力の強さを描きました。

サガリバナとは、南西諸島の湿地帯に自生するサガリバナ科の常緑高木です。梅雨の明けの6月下旬から7月上旬、日が暮れて咲き始め、朝方には散ってしまう儂い花です。そんな一夜の限られた瞬間に、命を繋ぐために、強い香りを放ち虫たちを集め、命のバトンを渡します。そんな生命の神秘、ロマンに思いを馳せました。

花が咲く時、果実が実る時、その周りでは生き物たち(ハナミノカサゴとキンギョハナダイ)がお祭りをしているように思えるのです。その喜びを表現しました。

そして石垣の天の川、水面に移る天の川と散ったサガリバナも共演したら…なんて幻想が広がりました。一夜の命が一夜の恋にも似てるのかと妄想は止まりません(笑)

詩も書いてみたので、合わせてお楽しみください。

サガリバナ

香れ 美しく咲け 命をつなぐために

月の夜に 儂く光る君
甘い香りに誘われて
多くの命が魅き寄せられる
闇夜のダンス 君を囲む
こんなにも美しいのに 一夜の命
朝になると散りゆく君
散りて なお美しく 水面に光る
君に出会えた 幸せ

香れ 美しく咲け 命をつなぐために

水際に咲く 私はサガリバナ
日が暮れて咲き 朝日に散る
多くの命を引き寄せるため
短い命 全力で咲きます
もうすぐお別れ 一夜の恋
散っても 忘れないでね
あなたの幸せ願っています

香れ 美しく咲け 命をつなぐために

終わりじゃない 新しい旅の始まり
また来年 梅雨の明けの頃
ここで待っています

※サガリバナの花言葉 幸せの訪れ

沖縄スーヅガ酒場 香の帆〜Kanoho〜

シーサー玉城さんの作品を展示中!

『渋谷で沖縄展 ー沖縄を感じる夏休みー』
7月22日(木)～8月15日(日)
平日：15:00～20:00
土日祝：12:00～20:00
沖縄スーヅガ酒場 香の帆(かのほ)
東京都渋谷区宇田川町10-1 パークビル5階
※JR渋谷駅から徒歩8分(渋谷東急ハンスそば)

★シーサー玉城プロフィール

沖縄生まれの復帰っ子。関東を中心に活動する沖縄ポップユニット・イチャリバースのボーカル、イベント司会、川崎FM「琉球リミテッド」のラジオパーソナリティー。そして、2020年の2月に銀座で個展を開催し、画家としての活動も始めた。見ているだけで楽しくなる絵を目指し、沖縄の自然の豊かさや命の美しさ、光を描こうと奮闘中。過去には、ダイビングスタッフ、劇団の歌のお姉さん、結婚式の舞台、漫才の舞台、ナレーションなどの経歴もある。またラジオ沖縄の「ハイサイ! 藤木勇人のヤマト de 沖縄タイム!」のアシスタントに2020年10月から再び咲き。

◎主な活動

イチャリバース

沖縄県東風平町出身のスーパー元気歌姫「シーサー玉城」三線と二胡を奏でる宮古島生まれ首里育ち「豊岡マッシー」ワールドBEATな沖縄民謡アレンジとメロディアスなオリジナル三線曲。二胡の叙情的なサウンドから会場が一体となるカチャーシーでイチャリバチョーデー(出会えば兄弟)精神で沖縄料理屋から野外イベント、ライブハウスに音楽ホール、ご宴会に結婚式、平和の集いや学校の授業まで。関東を中心にあらゆるところで今日も熱烈ライブ開催中!

画家・シーサー玉城

2014年比嘉美津子氏に師事、2015年たぶろう会初入選、2017年同会新人佳作賞受賞。

2020年2月東京交通会館ゴールドサロンにて「シーサー玉城初個展」を開催し、画家になる。

「描きたいもの」は、沖縄の自然、生き物。

自然の色にはいつも驚かされます。

海に潜って、色とりどりの魚、豊かなサンゴに出会うたびに、なぜこんな色に、こんな形になったのだろう?と生命の不思議とロマンを感じます。命を継ぐために、突然変異を繰り返し進化した結果、奇妙な形、奇跡の極彩色の生命を作りだしました。人間がどんなに想像を巡らし、技術を使っても、自然の創造物には勝てない。その美しさを私のフィルターを通して、描きたいと思うのです。

そして、沖縄の光とその彩色をさらに鮮やかにしてくれます。

私にとって、沖縄の光と命たちは、眩しくて心が躍り出してしまうのです。

なので都会に居ても、心が躍るような嬉しいこと、楽しいことがあった時、目の前に色鮮やかな魚たちが現れ、躍り出のです。

詳しくは、ホームページをご覧ください。 <https://seasatamaki.fun>

ウチナ〜タイム!

No.65

8月

2021年

ケマノミデサイン

オキナワをもうちょっと知りたくなる WEBマガジン

ホームへ戻る

バックナンバーはこちらへ
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。

概要 | プライバシーポリシー | Cookieポリシー | サイトマップ

[ログイン](#)

KIXI **JIMDO** あなたもジンドゥーで無料ホームページを。無料新規登録は <https://jp.jimdo.com> から

information & present

OKINAWA オススメ情報

情報提供
(一財)沖縄観光コンベンションビューロー-東京事務所



沖縄観光PR大使
花笠マハ工

JR秋葉原駅 泡盛&沖縄物産展

秋葉原で **8月16日(月)~22日(日)**
泡盛と沖縄物産展開催!



日時: 8月16日(月)~8月22日(日)
**会場: JR秋葉原駅構内
電気街口改札内イベントスペース**
**時間: 10時~21時
(初日12時~/最終日は19時まで)**

主催: (株)マーケティングガレージ
出展: (株)琉球エージェント、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー
その他(調整中)

お問合せ: (一財)沖縄観光コンベンションビューロー-東京事務所
03-5220-5311

沖縄観光ブース
もあるよ!

新型コロナウイルス感染状況により
開催日時及びイベント内容が変更になる場合がございます。
詳しくは上記までお問合せください。

JR秋葉原駅構内にて泡盛を中心とした沖縄物産展が開催されます!
沖縄旅行に行きたいけどなかなか行けないと思っている皆様、おうち時間を楽しく・充実させるアイテムとして自分好みの泡盛を探してみませんか? 沢山の種類に迷ってしまったら、お気軽にお店の方にご相談ください。また、沖縄観光ブースのご用意もごさいますので、皆様ぜひお立ち寄りください!!

開催日: 8月16日(月)~22日(日)
時間: 10時~21時 (初日12時~/最終日は19時まで) ※変動の可能性あり。
会場: JR秋葉原駅 電気街口改札内 イベントスペース
問合せ先: (一財)沖縄観光コンベンションビューロー-東京事務所 03-5220-5311
注: 今後の新型コロナウイルスの情勢によっては、中止・延期する可能性があります。

「白い砂のアクアトープ」放送開始



沖縄県南城市を舞台としたアニメ「白い砂のアクアトープ」が、7月よりTOKYO MX、BSフジ、MBS、琉球放送、富山テレビ放送にて放送中!
この作品は、南城市にある架空のちいさな水族館を舞台にした、二人の少女の絆や葛藤、成長を描く、完全オリジナルアニメ作品です。
第一話を視聴しましたが、沖縄の風景や物語に登場する観光パンフレットなどの再現性の高さに感動!! 沖縄を感じられる作品となっておりますので、皆様もぜひご覧ください。
詳細・放送スケジュールについては、公式HPよりご確認ください。
<https://aquatope-anime.com/>



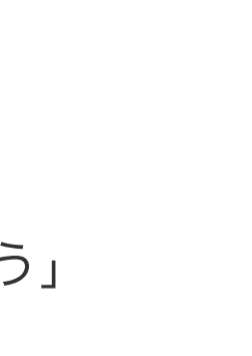
8月1日は「パインの日」



沖縄の pinaapple ©OCVB

8月1日は「パインの日」です! 国産のパインのほとんどが沖縄県で栽培されており、主な産地は東村や石垣島、西表島など。8月はパイン消費拡大月間とし、関連イベントを開催して広くPRを行っています。
パインは各種ビタミンを多く含み、特に、ビタミンB1は新陳代謝を良くし疲労回復に効果があるとき、夏バテしやすいこの時期にピッタリな果物です!
沖縄県産の甘くておいしいパインを食べて、元気に暑い夏を乗り切りましょう!!

ボーダーインクの本 電柱通りにある沖縄の出版社



ボーダーインクの本は、ホームページから購入できます



『沖縄怪異譚大全 いにしえからの都市伝説』
小原猛著
1,870円(内税)

「沖縄は妙なところだ。石が人に噛みつき、米がものを言う」

沖縄は神々の時代から現代にいたるまで、ずっと怖い話が大好きだった。『琉球怪談』シリーズの小原猛が渉猟してきた、現代の都市伝説へとつながる沖縄怪異譚を一挙に大公開。

—あなたが手にしているこの本は、沖縄のさまざまな市町村史や字誌などに収録されている怪異譚を、出典を明らかにしながら紹介しているというものである。

—怪談・奇譚好きにとって何物にもかえがたい宝箱、それが地域史なのだ。

●著者略歴
小原猛(こはらたけし)
作家。昭和43年京都生まれ。与那原可住。カメラマン、ライターとして活動したのち、沖縄移住。沖縄独自の怪談や精神世界、御旅文化などに興味を持つ。2011年にボーダーインクより『琉球怪談』でデビュー。その後『七つ橋を渡って』『不思議な子どもたち』『おきなわ妖怪さんぽ』『琉球怪談作家、マジモン・パラダイスに行く』『いまで もグスクで踊っている(ボーダーインク)、『琉球妖怪大図鑑(上下)』(琉球新報社)、『琉球奇譚シマクサシの夜』『琉球奇譚ペーパークーの呪い』(竹書房文庫)など。現在、琉球新報の小中学生新聞「りゅうPON!」に「ふしぎうちな-ショートショート」、琉球新報住宅新聞「週刊かふう」に「沖縄ミステリアー」隔週のマジモン」連載中。また「琉球怪談」のコミック版(太田基之・画)が小学館から刊行。

●2021年7月 初版第一刷発行

今月の プレゼント!



石垣優さんサイン色紙をプレゼント!

8月の『ハイサイ!ウチナータイム!ファン倶楽部』プレゼントは
石垣優さんサイン色紙をプレゼント!(evs)

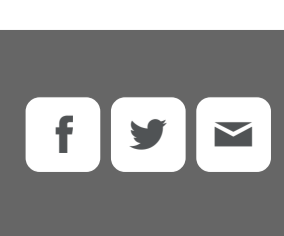
【応募方法】

20日(金)19時に、LINEファン倶楽部会員様向けに『合言葉』を配信しますので、その合言葉をメールにてご応募してください。たくさんのご応募お待ちしております!

ホームに戻る

バックナンバーはこちらへ
編集長宮里英克オフィシャルサイト
<http://miyazatohidekatsu.com>

さあ、はじめましょう!



Jimdoで、世界でたったひとつ、あなただけのホームページをつくりましょう。クリック&タイプ操作で、画像やフォームなどのコンテンツ追加、文章の作成、編集が驚くほど簡単にできます。ソーシャルボタン、ブログの作成も対応しています。